

# く す り ば こ



## 71. 「血液サラサラの薬」って何かな？

最近、“血液をサラサラにする薬です”と言われてお薬を服用されている方が増えています。健康食品やサプリメントとして市販されている品も“血液サラサラにします”と広告していますよね。一口に血液サラサラと言っても、血栓を作らないよう処方される薬にもそのように表現されている場合があります。

これらの薬は抗血栓薬、抗凝固薬と言われ、何種類かあります。「あー、血液サラサラね」、「健康食品の延長上にあるような薬よね」と患者様からはあたかもサプリメントが薬になったかのように思われているような発言が聞かれます。ところが、言葉の軽さとは裏腹に抗血栓、抗凝固、あるいは凝固抑制作用の薬は医師の診断、処方で調剤しますので、薬の性質上、注意しなくてはならない副作用があります。

因みに当院にある抗血栓薬、抗凝固薬、血小板凝固抑制作用薬は、一般名ワルファリンカリウム、アスピリン、クロピドグレル、ダビガトラン、リバーロキサバン、サルポグレラート、塩酸チクロピジン、エパデール、リマプロストアルファデクス、シロスタゾール、ベラプロスト等々となっています。

ワルファリンカリウムは出血注意はもちろんのこと、納豆、クロレラ、青汁は摂取しないでください。主治医が血液中のPT-INR値を確認し、処方します。

アスピリンは出血注意、アスピリン喘息の誘発や消化器症状(嘔気、嘔吐、食欲減退など)などの副作用があります。

ダビガトランは腎機能の低下した方には要注意ですし、クロピドグレルも肝機能などに注意が必要です。

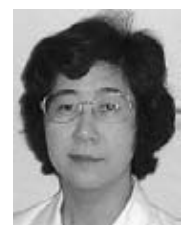
処方された場合、血栓を作らないためにもきちんとした服用が必要です。副作用が怖いからと服用をやめてしまうのは本末転倒です。

これらの薬が初めて処方された時は注意点をよく聞いておいてください。他の検査や治療の前に中止して戴く場合もあります。また、他科、他病院にかかる時もご自分の内服薬についてお知らせください。お薬手帳や「お薬の説明書」を活用するのも良いでしょう。

時にはご自分の服用、あるいは使用している薬について整理してみるのはいかがでしょうか。そして主治医にかかる前、体調等で気になる点がありましたら、遠慮せず、質問してみてください。予めメモなどを取ってからかかるのもいいですよ。

処方内容はずっと変わらないということはありません。むしろ診察してその症状に合わせて変わることはあります。その時は、どのお薬が変わったか、あるいは増えたか減ったか、量が変わったか、いつから服用するか等きちんとご自分で確認して下さい。

ともあれ、言葉は軽くとも重要なお薬です。せっかくの情報もサラサラと耳から流れてしまわぬよう、少々ご注意を。



(薬剤部 林 万起子)